

信徒が司祭に意見することは、こんなにエネルギーを必要とするものなのか…。以前から感じていたことではあるが、信徒が司祭に自分の考えを

言うことは、とても勇気がいるようだ▼ある研修会で、信徒の皆さんと司祭たちが同じテーブルに着き、意見交換する場があった。隣の席に、ある教会の信徒会長がいた。司祭の意見に対して反対とまではいかないが、別の考えを述べるとき、少し震えているようにさえ感じた。肌身で感じると

は、このようなことかと思つた。司祭に対して気を使って話す様は異様にも思えた。どうして普通に話せないのだろうか。

## 地の塩

04.3.14

主日のミサが終わって、信徒の皆さんと話するときも感じる。互いにあいさつはするが、その後の会話が続かない。気を使いすぎている…▼原因は信

徒の側ではなく、どうも司祭の側にあるようだ。司祭の側に何か人を寄せ付けられないものがある。それは何か。いろいろあるだろう。その一つは間違つた権威主義。人の話を聞かないで、上からものを言う。時として威圧的な態度。自分だけが正しいと思つている。こう慢な気持ち…▼信徒は司祭を「キリストの代理者」と見る。もしそうだとすれば、司祭は、権威主義と戦い、人の叫びに耳を傾け、人となって生まれるほどに、十字架の上で死ぬほどにへりくだつた謙虚なキリストを表す者でなければならぬ。どこがおかしい。仕えさせるのではなく、仕える姿…▼「すべてのキリスト信者は、キリストにおける新生のゆえに、尊厳性においても行為においても真に平等である」(教会法第208条)。「キリスト信者は、自己に必要なこと、特に靈的な必要、及び自己の望みを教会の牧者に表明する自由を有する」(同212条②)。参考までに。